

令和 8 年度 福岡県看護協会 1 地区支部

第 1 回 施設代表者会議議事録

令和 7 年 7 月 29 日（水）14：00～16：00

ナースプラザ福岡 201 研修室

1. 挨拶

福岡県看護協会濱田会長より、熊本地震で犠牲となられた方々への哀悼の意が述べられた。また、被災地との連帯と迅速な救護活動への決意が表明されるとともに、今後の支援要請に対する積極的な協力が求められた。続いて、地区理事、ナースセンター職員、出席施設代表者および地区支部役員による挨拶が行われた。

2. 看護協会の取り組みについて

濱田会長より、通常総会の報告がなされた。続いて、令和 8 年度の重点目標である「看護に係る人材の確保と育成」「全世代型地域包括ケアシステムの推進」「協会組織の強化および地区支部との連携強化」の 3 項目について、具体的な施策を交えながら説明が行われた。

3. 令和 7 年度 事業報告・決算報告

1) 令和 7 年度地区支部事業報告について [担当：江口（以下敬称略）【資料②】]

地区支部会議の開催状況、外部会議への参画状況、研修会・研究発表会の実施状況ならびに地域活動の実施状況について報告が行われ、併せて各事業の成果や課題を含めた評価が説明された。

2) 令和 7 年度決算報告について [担当：一宮【資料③】]

「まちの保健室」「地区活動」「研修会等」に係る予算額および執行額について報告が行われ、各事業の予算執行状況が報告された。

4. 地区支部長会報告

1) 令和 8 年度目標および重点事業等について [担当：江口【資料④】]

本事項については、「2. 看護協会の取り組み」に関する説明に含まれていたことから、詳細な説明は省略された。

2) 令和 7 年度ナースサテライト事業報告 [担当：江口【資料⑤】]

看護職無料職業紹介事業の実績について、相談件数および就職者数の経年推移が前年度を上回り、相談を受けた看護職の就業につながっている状況が報告された。一方、看護職等の届出数は前年度より減少しており、潜在看護師の活用促進が今後の課題として示された。

3) ふれあい看護体験について [担当：江口【資料⑥】]

「令和 8 年度事業概要」について説明が行われるとともに、前年度から実習費を増額したことが報告された。また、「令和 7 年度事業実施報告」がなされた。併せて、ふれあい看護体験に参加した高校生の約 80%が看護系学校へ進学したことが報告された。

4) 介護認定審査委員の推薦について

[担当：江口【資料⑦】]

次年度の看護認定審査会委員の任期ならびに推薦条件について説明がなされた。併せて、推薦候補者について支部長に連絡いただきたい旨の依頼がなされた。

5. 地区支部事業計画

1) 事業計画

[担当：江口【資料⑧】]

今年度の事業計画については、前回の令和7年度第2回施設代表者会議で提示した内容から変更がない旨の説明があった。なお、「地域活動」のうち「まちの保健室」については、ナースフェスタ内での開催がなかったため、今年度の実施回数を2回から1回に見直すことが報告され、承認された。

2) 予算計画

[担当：一宮【資料⑨】]

今年度の予算計画について、前回の令和7年度第2回施設代表者会議で示した内容から変更はない旨の説明がなされ、審議の結果、承認された。

6. 地区支部活動

1) まちの保健室について

[担当：平山【資料⑩】]

今年度の開催地は令和健康科学大学大学祭を予定していることと併せて開催日時について報告がなされた。また、協力員担当表に担当施設を示しているが、今後の人数調整等により変更となる場合があるため、事前に連絡する旨が説明された。

2) 看護研究発表会・看護研修会について

[担当：平山【資料⑪】]

看護研修会および看護研究発表会の開催日時や会場等について説明がなされた。看護研修会のテーマ案として「看護師のストレスマネジメント」が提示され、他に希望するテーマがあれば会議終了後に連絡してほしい旨が説明された。また、看護研究発表会については、演題募集および抄録提出期限について説明が行われた。さらに、発表者との連絡調整を円滑に行うため、発表者の連絡先を伝えていただきたい旨の依頼があった。

7. その他

1) 令和8年度 第2回施設代表者会議について

令和8年度第2回施設代表者会議は、令和9年2月24日（水）14時00分から16時00分まで、ナースプラザ福岡203研修室において開催予定であることが報告された。

2) 1地区支部代議員制の輪番について

[担当：江口【資料⑫】]

令和9年度代議員の推薦について、前回の令和7年度第2回施設代表者会議で提示した内容から変更はないことが説明された。併せて、推薦者の「施設名」「氏名」「福岡県看護協会会員番号」を8月中旬までに支部長へ連絡するよう依頼があった。

3) 意見交換 テーマ：「看護学生の実習受け入れについて」

各施設における看護学生の実習受け入れ状況、指導者の育成、実習指導の取り組みなどについて、参加者間で報告および意見交換が行われた。

【看護学生の実習受け入れ状況】

看護科・看護専攻科の5年一貫課程、看護専門学校および看護系大学の学生について、複数の養成機関から実習生を受け入れていることが報告された。また、低学年を対象とした基礎看護学実習をはじめ、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、地域・在宅看護学などの専門領域実習や、最終学年における統合実習について、各施設の専門性を活かした実習指導を実施していることが報告された。

【指導者の育成について】

参加施設の多くが、看護協会主催の研修会を積極的に活用している状況が共有された。また、施設によっては実習指導者研修への参加にあたり、施設からの支援が行われていることが報告された。

【実習指導の施設としてのねらいや効果について】

実習の受け入れは、将来的な就職につなげることを目的の一つとしている。また、学生が新たな知識や技術を習得するとともに、指導にあたる看護師自身にとっても実践を振り返り、専門性を高める機会としている。さらに、学生が看護職の魅力を実感し、「看護師になりたい」と思えるような実習指導を心掛けているとの意見が聞かれた。

実習を受け入れることは、看護教育の質の向上や人材確保につながるだけでなく、職員と学生が共に学び合う環境づくりにも寄与しているとの意見があった。また、指導者としての資質向上を図ることの重要性が共有された。

加えて、学生に「ここで働きたい」と感じてもらえる実習環境を提供し、将来的な当該施設や地域での就職につなげたいとの意見が示された。学生の教育は養成校だけで担うものではなく、臨地実習を受け入れる医療機関・施設も重要な役割を担っていることが共有された。さらに、実習施設として学生から選ばれる魅力ある施設づくりの必要性についても意見が交わされた。

【実習指導における課題や対処】

看護学生の受け入れにおける課題として、コミュニケーション能力やメンタルヘルス面に課題を抱える学生への対応の難しさが挙げられた。また、学生担当者を配置している病棟では継続的な支援やフォローが可能である一方、担当者を配置できない病棟では、教員と連携を図りながら指導を行っている状況が報告された。

電子カルテの環境整備や学生用アカウントの確保が十分でなく、実習指導に支障をきたしている状況が報告された。また、実習指導者を専任で配置することが難しく、通常業務との両立が課題となっていることが共有された。

実習指導に対する職員の受け止め方については、負担に感じる看護師がいる一方で、学生指導を自身の成長やモチベーション向上につながる機会として前向きに捉えている看護師もいることが報告された。施設によっては、実習指導は通常業務と並行して実施しており、指導者の負担軽減および役割に対する評価として手当を支給している施設があった。

【教育機関の状況】

実習指導を通じて学生から学ぶ機会を得ていることへの感謝が述べられた。また、学生の資質に関する指摘については、実習施設との信頼関係の構築に配慮しながら対応していることが

説明された。さらに、支援や配慮を要する学生については、実習開始前に施設へ情報提供を行い、連携を図りながら指導にあたっていることが報告された。

教育の質向上に向けた取組として、大学と実習施設が共同で年 1 回の研修会を開催していることが紹介された。また、各大学においても教育の質向上を目的とした研修を実施しているほか、教員については全国規模の研修への参加や、個々のニーズや専門分野に応じた研修機会が設けられていることが報告された。

4) LINEWORKS の登録について

[担当：江口【資料⑬】]

今後の円滑な連絡・情報共有を図るため、LINE WORKS への登録について協力依頼がなされた。